

科目名	テクニカルフォトⅢ			科目コード	1514
開講学科	写真学科	単位数	4	形態	実習
教員名	小川幸三				
授業の目的及びテーマ					
誰に何をどう伝えたいかという目的を押さえる。この作品を明確にするためにデザイン計画で見せ方、伝え方などの情報の整理を学ぶ。伝えるべき作品集制作実習。					
授業概要					
レイアウトの基本ルールとなる配置設計の基礎知識を挙げている。 例として版面・マージン・グリッド・揃える・トリミング・構図・写真と文字・色の知識・色の対比・文字と書体とフォントファミリー・和文と欧文・文字揃え・シャープなデザイン力。デザインは、すべて読み手にきちんと伝わる誌面、読み手の心に残るデザインを制作するために知ってほしい基礎知識や注意点を事前にルールをテキストで学んでいてほしい。テキストのデザイン入門概要					
授業計画					
レイアウトの基本ルールとなる配置設計の基礎知識を学ぶ。 第 1 回：だれに何をどう伝えたいかの目的について。通信の意味が受け手の解釈によって大きく変わることを理解する。 第 2 回：仮題名。正式なタイトルは最終的に決めればよい。仮に決めておかないと何を表現すればよいかわかりづらくなる。 第 3 回：制作と段取りのためのアウトラインを構成する「ブレーンストーミング」で箇条書きと整理で明示する。 第 4 回：自己実現を果たすために出版。この世で生きてきた証を出版物を通して半永久的に残すメリットになる。 第 5 回：一貫したイメージを持つブランディングに直結させた情報発信とする。以前のものが思考で前より新しくなる。 第 6 回：見るということを通じてイメージとの関係を探ってみる。ワンカットずつ積み上げ作る時空間を感じさせる。 第 7 回：与えられた楽しさには枠があるが、自らの制作物では楽しさになる。心の響きあいを愉しむことにある。 第 8 回：新たな視線がユートピアへの一歩を踏み出す一助となる。ものの選択が問題となる。知っているより答えること。 第 9 回：時空間とは起承転結ではない。感情や意識が働き、意図や現実（現象）をステージアップを起こすさまとして描く。 第 10 回：見たものと撮って写真として見たときの異なりを知る。実際に起こっている複雑さを簡単にまとめること。 第 11 回：制作はいかにイメージをどのように拡大させるかにある。意識して使い分けると意味が理解できる。 第 12 回：異なる同士を編集することでものとして価値が高まる。バラバラな要素が一つとしてみえることにある。 第 13 回：単にきれいに見えるのが良いデザインではなく、相手に対して着眼点や発想力の訴求効果あるものが良いとされる。 第 14 回：デザインの基本は「グリッド」「揃える」「余白」「近接」「対比」「反復」「繰り返し」で延長線上にある。また重要部分をあえて隠すことで興味を惹くことになる。デザインの基本は撮影の基本になる。 第 15 回：デザインを制作するために知ってほしい基礎知識や注意点などを事前にルールとしてテキストで押さえておく。					
テキスト	「デザイン入門教室」坂本伸二 著		参考文献	「カタログのデザイン」 (ビー・エヌ・エヌ新社 2015 年 6 月初版発行) 「アーティストブック 1000」 (グラフィック社 2012 年 7 月初版発行) 「岩宮武二の仕事」 (光村推古書院 2018 年 12 月初版発行) 「20th Century Photography Museum Ludwig Coligne」(TASCHEN 2007 年)	
評価方法：					
提出課題件数とテキスト内容の理解度と将来に向けた展望（所見）の記載による評価となる。 面接授業は、授業作成実習の成果物と受講時などにより総合的な評価となる。					

課題提出

課題概要

第1 提出課題は冊子制作の骨組となる撮影の概要・コンセプトを A4 に 1,200 字数で作成提出。

第2 提出課題は課題テーマに沿った写真作品 20 作 (画像 50 点) 30 作 (画像 100 点) JPEG・TIFF を USB カード提出。

第3 課題は制作実習①リーフレット制作②自己の写真集制作。